

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
実用新案登録第3235319号  
(U3235319)

(45) 発行日 令和3年12月9日(2021.12.9)

(24) 登録日 令和3年11月19日(2021.11.19)

(51) Int.Cl.		F 1		
<b>A 4 1 D</b>	<b>13/11</b>	<b>(2006.01)</b>	A 4 1 D	13/11
			A 4 1 D	13/11
				A
				Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2021-2979 (U2021-2979)  
 (22) 出願日 令和3年6月22日(2021.6.22)

(73) 実用新案権者 521287315  
 川井 貴正  
 神奈川県横浜市神奈川区西寺尾1-9-7  
 (72) 考案者 川井 貴正  
 神奈川県横浜市神奈川区西寺尾1-9-7

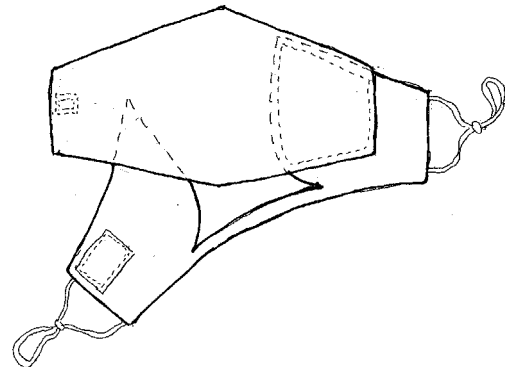
(54) 【考案の名称】 面ファスナー式開閉型会食用マスク

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 会食時のマスク着用を促し、感染症蔓延予防を目的とする衛生マスクを提供する。

【解決手段】 布製マスク2枚を使用し、それぞれを固定側、可動側とし、片側を縫い合わせ開閉可能とし、面ファスナーで、もう片方の開閉部分を固定、解放する仕組みを作った。

【選択図】 図3



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

布製マスク 2 枚を使用し、それぞれを固定側、可動側とし、片側を縫い合わせ開閉可能とし、面ファスナー（商品名マジックテープ）で、もう片方の開閉部分を固定、解放する仕組みを作った衛生マスク。

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は布製マスク 2 枚を加工、縫い合わせ、開閉可能にした衛生マスクである。

## 【背景技術】

10

## 【0002】

新型コロナウイルス蔓延の原因の中で最大の問題のひとつが会食時の口からの飛沫拡散である。食事中にもマスク着用を推奨されているが外してしまう人は多く、対応策として口に食べ物を運ぶ時だけマスクの片側の紐を外す行動が考えられるが手の動きが大きく、片方の耳に掛ったマスクは不安定で普及しない。マスクを口から顎へ移動させるという動作も行われているが顔に付着した細菌類が直接口に入ってしまう可能性が有り不衛生である。

## 【考案の概要】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0003】

20

会食中のマスク装着を推進し、食べ物を口に運ぶ時だけマスクを外す面倒な動作を自然に出来るようにしたい。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

本考案は、固定側マスクの鼻から口に当たる部分を切断し、左端に面ファスナーループ側（細かい面）を縫い付ける。可動側マスクの両側の紐を切断し左端裏に面ファスナーフック側（荒い面）を縫い付け、右端を固定側マスクの右側に縫い合わせる。固定側マスクの紐を両耳に掛け、下部を顎に掛け、左手指で可動側マスクの右端をつまみ、面ファスナーを外して使用する。

## 【考案の効果】

30

## 【0005】

短い動作で開閉が出来て、口、鼻が露出する時間が減った。前考案では固定側マスクの一部が鼻に掛かり違和感、外見上の問題があったが、顎に移る事により解消され、面ファスナーによる解放、固定で腕の移動距離が減った。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0006】

【図 1】一般的なアジャスター付き布製マスクの鼻から口の部分を切断し、面ファスナーを縫い付けた固定側マスクの正面図。

【図 2】可動側マスクの両側の紐を切断し、面ファスナーを左端裏に縫い付けた正面図。

【図 3】固定側マスクと可動側マスクを縫い合わせた正面図。布製マスクは立体構造なので、固定側マスクは中央が切り取られ拡がる。

40

【図 4】装着する状態にした正面図。

【図 5】マスクを装着し、食事する時のイメージ。

## 【考案を実施するための形態】

## 【0007】

固定側マスクと可動側マスクを面ファスナーで固定し、左右の紐を耳に掛け、アジャスターで調整しマスクが頬を覆う様に装着する。左手親指と人差し指で可動側マスクの右端をつまみ、残り 3 本の指で頬を押し、面ファスナーを外し開け、右手で食べ物、飲み物を口に入れ直ぐに閉じ、面ファスナーを圧着する。

## 【実施例】

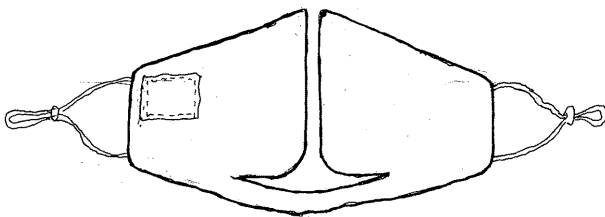
50

## 【 0 0 0 8 】

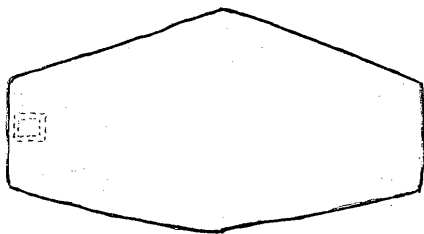
以下、添付図面に従って一実施例を説明する。[ 図 1 ] は土台となる固定側マスク。鼻から口に当たる部分を切断し、左端に面ファスナーループ側を縫い付けている。[ 図 2 ] 可動側マスクの両側の紐を切断し、左端裏に面ファスナーフック側を縫い付けている。面ファスナーの接着力は強いのでフック側は小さくする。[ 図 3 ] 固定側マスクと可動側マスクの右側で重なる部分を縫い合わせた状態。固定側マスクの鼻から口に当たる立体部分を切断したため開いている。

本考案は右利きを想定しているが [ 図 1 ] の面ファスナーの位置、[ 図 2 ] の面ファスナーの位置、[ 図 3 ] の接合部分を左右反対にすれば左利き用にする事も可能である。

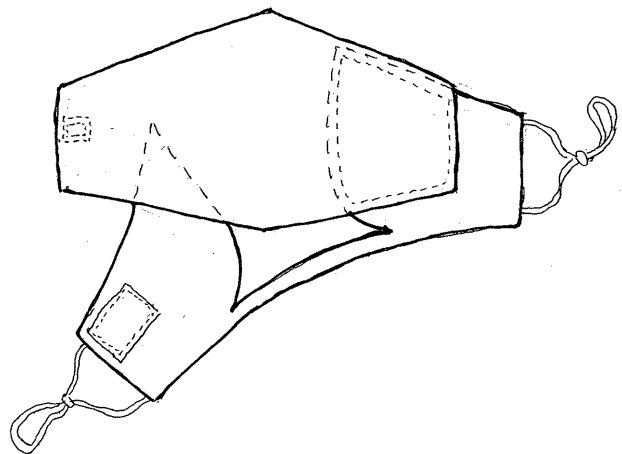
【 図 1 】



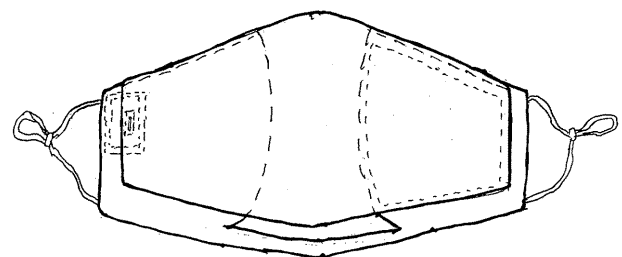
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



【図5】



【手続補正書】

【提出日】令和3年9月10日(2021.9.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

布製マスク2枚を使用し、それぞれを固定側、可動側とし、片側を縫い合わせ開閉可能とし、面ファスナーで、もう片方の開閉部分を固定、解放する仕組みを作った衛生マスク

。